

News Letter

2011.12 創刊号

Educational and Academic Support Organization

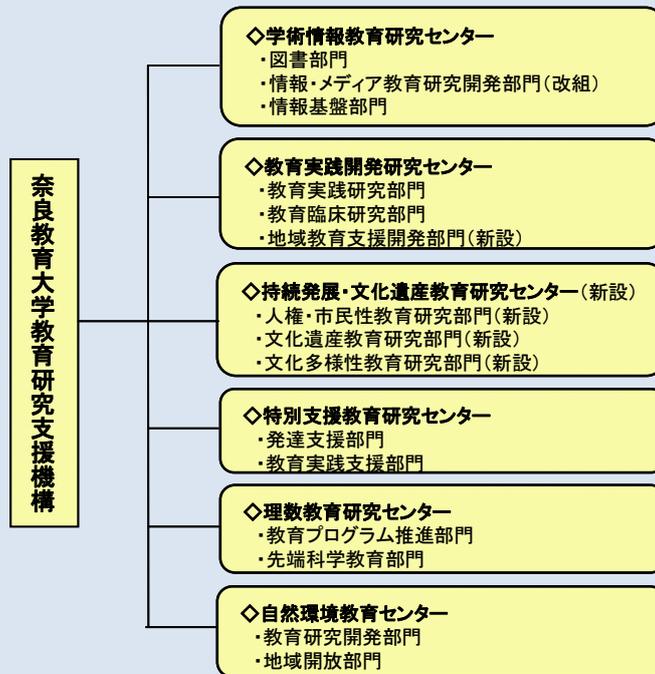
教育研究支援機構の設置にあたって

教育研究支援機構長・学長 長友恒人

本学附置センターは、教育現場や地域社会におけるニーズに合わせてより高度な教育研究を行うことができるように、教育研究の進展とともに順次開設され、地域社会にもより深く関わって教育研究を行い、その成果を、教員養成教育に反映させるとともに、さまざまな講習会、研究会や公開講座等を通じて、地域の方々に発信し還元するなど重要な役割を担ってきました。既存のセンターの活動をより発展させ、新しい教育課題にも応えていくために、それぞれのセンターの機能を調整し、連携して附置センター全体として学部・大学院教育のサポート体制を強化するとともに、地域の教育に今まで以上に貢献し、新たなニーズにこたえていくために包括的に連携・調整ができる仕組みとして「奈良教育大学教育研究支援機構」を発足しました。



今後、各センターの活動が本学の特色ある教育研究としてより進展し、教育的実践力を持った個性豊かな教員の養成に寄与するとともに、地域と大学をつなぐパイプ役としてより充実した取り組みができるようにしたいものです。



CONTENTS	P 1	教育研究支援機構の設置にあたって	P 5	理数教育研究センター
	P 2	学術情報教育研究センター	P 6	自然環境教育センター
	P 3	教育実践開発研究センター	P 7	持続発展・文化遺産教育研究センター
	P 4	特別支援教育研究センター	P 8	各センターのホームページ一覧

学術情報教育研究センター

本学の教育と研究に関わる学術情報・資料の収集、利用及び活用の促進、情報ネットワーク等情報基盤の運用管理、情報・メディア教育及びその研究開発を行います。

【図書部門】

・本学図書館及び教育資料館を運営し、学術情報の収集、管理、提供及び展示を行います。

【情報基盤部門】

・本学情報館を運営し、学術情報の取り扱いに必要な情報基盤の運用管理を行います。

【情報・メディア教育研究開発部門】

・学術情報の収集・管理・提供・展示及び情報基盤の運用に関する研究並びに情報・メディア教育等を行います。

1. 電子書籍・電子ジャーナル等の充実

図書館では、電子書籍・電子ジャーナル、シラバス掲載図書、教科用図書、留学生図書等、学術情報基盤のさらなる充実を図ります。アマゾンによれば、2011年4月以来、キンドル（Kindle）版電子書籍の販売冊数が、紙媒体書籍のそれを上回ったということです。ICT教育の観点だけではなく、蔵書スペースの観点からも電子媒体での図書・論文の導入は「待ったなし」の状況と言えます。

2. 公開講座等の実施

本センターでは、本年度も「ならやまオープンセミナー」として本学教員による「情報機器・ソフトの基本操作」及び「入門的な学術内容の理解」を目的とする公開講座を実施しています。

また、2010年度から大阪教育大学との図書館連携による公開講座を実施していますが、本年度もこれを行い、来年度以降も継続する予定です。2010年度・2011年度ともに盛会であり、今後とも連携事業を充実させていきたいと思っています。

3. 図書館機能の向上

2010年度に行われた利用者ニーズに関するアンケート結果の分析と、それに基づく図書館機能の向上策を実施

していきます。図書館機能にとって最も重要なことは、利用者のニーズに可能な限り応えていくことです。耐震改修後の図書館に、さらにライティングサポートスペース、個人学習スペース、リフレッシュスペース等を増設する第2期計画を立案中ですが、これも利用者からの希望を優先してのことです。

4. 教育資料の展示

教育資料館は、我が国の学制発足以降における奈良県下の初等中等教育に関する資料を中心として、教育関係資料を収集、整理し、これを展示並びに保管しています。

展示スペースは、学生が企画立案したイベントなどに活用されています。



5. えほんのひろば

えほんのひろばは、教員志望の学生の教育支援及び地域の子育て支援や地域連携を視野に入れた子どもから大人まで、絵本に親しむことができるよう毎週水曜日の午後1時から5時まで一般に開放されています。約2,500冊の絵本を所蔵し、絵本を並べる「面展台」や本棚もダンボールで手作りです。



教育実践開発研究センター

教育実践、教育臨床及び地域教育支援に関わる理論的、実践的研究を専門的・学際的に行うとともに、高度の教育実践力を有する教員及び学校教育に係る諸問題に適切に対処できる教育実践の指導者の養成に寄与するとともに、その成果を地域に還元します。

【教育実践研究部門】

- ・教育実践の内容と方法に関する理論的、実践的な研究を行います。
- ・教育実習及び事前・事後指導に関わる企画・コーディネーションを行います。

【教育臨床研究部門】

- ・教育臨床的な問題（不登校、いじめ等）に関する理論的、実践的な研究を行います。
- ・教育臨床的な問題に係る学校支援やコンサルテーションを行います。

【地域教育支援開発部門】（新設）

- ・地域教育支援に関わる理論的、実践的又は学際的な開発研究を行います。
- ・こどもサポーター、こどもパートナー認証制度に係る研修会を実施します。
- ・スクール・サポーターなどの学校支援及びボランティア活動支援を行います。

1. 『公開講座（ならやまオープンセミナー）、教員研修会、教育講演会等の開催』

「ならやまオープンセミナー」にて、電子黒板などの新しい情報（教育）機器を用いて、たのしくわかる授業を行うための教材開発・構成力の向上を図ることを目的にして、「授業力向上研修講座：楽しくわかる授業を創る」を実施しました。

今年度は、東日本大震災での被害者支援活動にかかわる活動も行っています。ボランティア・サポート・オフィスと連携して、震災ボランティアを希望する学生への事前研修、附属学校園教員向けの研修を実施しました。

また、この部門には奈良県教育委員会との連携で客員教員が配置されています。毎年12月中旬に教育研究所教育相談部で対応するいじめ・不登校などへの教育相談の

現状や対応について教育講演会を開催しています。それ以外にも、「教員研修講座（継続研修会）：教師のこころの健康シリーズ3」を実施いたします。今後は、大学として被災地での教育支援や奈良県内に避難してこられた子どもさんへの教育支援活動を行っていく計画があり、センターとしても協力していく予定です。

学年始めには、近隣の府縣市等の教育委員会と連携し、学校支援ボランティアで活動する学生を対象にした「学校ボランティア説明会」を開催しました。また、教育支援人材育成事業として、「こどもサポーター、こどもパートナー認証制度」に係る研修会を企画・実施しています。特に「スクールサポート研修・認証制度」を推進しています。研修にあたっては、奈良市教育委員会との連携と協力で研修を行っています。また、広く子どもとかかわるボランティアスタッフが、地域における教育支援人材として一層活躍できるための研修として「こどもパートナー養成講座」を開催しました。

2. 『2つのサポートルーム』の活用を

リニューアルなった当センターには、「サポートルーム」があり、連日多くの学生諸君が利用しています。「ボランティア・サポート・オフィス」では、専門の相談員を配置し、各種相談を受けることができ、学生の自主的なボランティア活動の企画・実行計画を行うミーティングルームもあります。ペットボトルのキャップのリサイクルでサインペンに製品化（サクラクレヨンとの協力）されました。また、東日本大震災への現地支援ボランティアを希望する学生のために事前研修会を実施しました。

「教師力サポートオフィス」は、学生諸君の教育実践力の向上を支援するための活動を行っています。教育実践に関する各種の情報を収集して活用してもらっています。



震災ボランティア派遣事前研修会

特別支援教育研究センター

特別支援教育に関わる理論と実践に関する教育研究を総合的に行い、特別支援教育を担う人材の養成に寄与するとともに、地域における児童生徒等の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進に貢献します。

【発達支援部門】

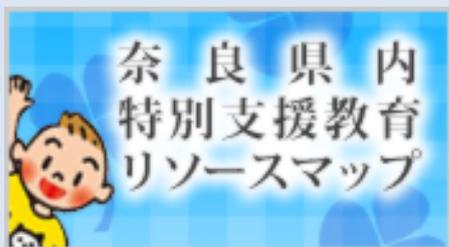
・主に保護者を対象として、教育相談・発達支援などを行います。

【教育実践支援部門】

・教育委員会や学校等と連携して、共同研究、実践、人材育成などを行います。

1. 特別支援教育モデル推進事業の実施

本センターと地域の教育委員会との連携協定等に基づき、特別な支援が必要な本人、家族、教員等への相談機能の強化、多彩なニーズに応じた支援体制モデルの構築、それらを基とした本学学生や現職教員、地域の人材の人材養成を目的とした独自の教育研修プログラムを構築するため、「地域全体でライフサイクルのニーズに応じる特別支援教育モデル推進事業—教育委員会等との連携による大学のセンター機能の強化と人材養成—」を実施します。



(1) 研修事業

【特別支援教育公開講座（兼支援員養成講座）】

特別支援教育で大切なことは、子どもと保護者との信頼関係のもとに、専門性と具体性を持って本人に応じた支援を継続していくことです。平成23年度の公開講座は「自立」に向けての支援について、現場での具体的なかわりを元に考えていきます。支援員や教員を目指す方、現場で活躍中の保育、教育、保健、医療、福祉、そして就労などの専門家にも適した講座です。

第1回 2011年7月9日（土）

「自立に向けて大切にしたいこと」

第2回 2011年8月6日（土）

「学校現場での具体的支援」

第3回 2011年10月15日（土）

「子どもの育ちとからだ・感覚・運動」

第4回 2011年11月19日（土）

シンポジウム

1. 「発達段階を踏まえた職能教育のあり方」
2. 「特別支援学校における進路指導の取り組み」
3. 「支援者（福祉・学校・家族）との連携の重要性
企業（特例子会社）の立場から」
4. 「発達障害とともに生きて・・・」

シンポジウム

「自立に向けての支援～私たちにできること～」

第5回 2012年1月21日（土）

「発達障害児の教育相談の実際」

「学校で活動するにあたって」

【特別支援教育セミナー】 対象:教員の方

2011年8月30日（火）

「LD、読み書き障がいへの気付きと具体的支援について」

【PT・TT リーダー養成講座】

①ペアレントトレーニング 指導者養成講座

2011年7月2日（土）・3日（日）

②ティーチャートレーニング 指導者養成講座 8/23（火）

【専門プログラム】

①ソーシャルスキルトレーニング（SST）

月1回土曜日午前中の全10回実施

②ペアレントトレーニング（PT）

火曜日午前中の全10回実施

③ティーチャートレーニング（TT）幼児版

木曜日夕方の全6回実施予定

(2) 相談事業

【個別相談】

①発達相談：本人および保護者からの相談

②教育相談：学校や園の先生からの相談



理数教育研究センター

理数教育に関わる理論と実践に関する教育研究を総合的に行い、理数教育を担う人材の養成に寄与するとともに、地域における児童生徒等の教育的ニーズに応じた理数教育の推進に貢献します。

【教育プログラム推進部門】

・地域の学校と連携しながら、実践を通して理数教育プログラムを開発します。

【先端科学教育部門】

・地域の学校教員と共同して試行しつつ、先端科学を学校教育にどのようにわかりやすく取り入れるか、などについて理論化し教材を開発します。

1. 理数教育プロジェクトから理数教育研究センターへ

奈良教育大学の理数教育プロジェクトは、2005年度から開始された「先導理数」（小中学校理数科教員養成）、2006年度から開始された「融合理数GP」（高校理数科教員養成）では、今までにない高度な教科専門性と優れた教育実践力を兼ね備えた理数科教員養成を目指した教育プログラムを開発してきました。そしてそれらの教育プログラムは、2008年度から「新理数」プロジェクトへと発展的に継承され、新理数プログラムでは、それまでのプログラムに、地域連携事業を強力に組み入れました。それらの総体を統括するために「理数教育研究センター」が設立され、さらに、教育研究支援機構の一翼を担う常設センターとして位置付けられました。



ケンタッキー州大学連合との国際交流事業

2. 理数教育研究のグローバル化

理数教育研究センターには、非常に多くの機能が集約されていますが、設立当初からの大きな目的の一つが「理数教育研究のグローバル化」でした。当然のことながら、理数教育は、奈良教育大学限定の教育課題ではなく、各

国の垣根を越えて全世界規模で対応すべき人類の未来を左右する大きな課題です。また、科学技術の高度化と社会生活の急激な変質の現実を直視したとき、教員養成系大学のみならず理工系学部（院）・研究所と協働が必要となってきます。新世紀の理数教育を真摯に考えた時、理数教育研究の国際化と理工系学部（院）・研究所との連携事業の推進は、必然的に重要課題の一つとなってきます。

3. 理数教育の国際化と理工系学部（院）・研究所との連携

こういった展望を踏まえ、理数教育研究センターでは、既に、国内の理工系学部（院）及び海外の教育・研究機関との連携を推進してきた。現在までに、着手してきた連携事業の主なものは、

- ・米国ハワイ州プナホー・スクール視察と理数教育国際シンポジウムの開催
- ・高エネルギー加速器研究機構(KEK)、奈良女子大学附属中等教育学校、熊本県南小国町立南小国中学校、宇宙航空研究開発機構(JAXA)との連携事業
- ・タイ王国教員訪問団への理数教育研究センター教員研修の実施
- ・米国ケンタッキー州大学連合との国際交流事業

2011年度は、上記の成果を踏まえて更なる連携事業の発展的推進を行うこととし、今回の東日本大震災に関わって発生した原発事故が、既に、国際交流事業に影響を与えていることを特筆すべきであろう。「科学技術と社会」について、大きな警鐘が打ち鳴らされている中で、理数教育の基盤にも再考が促されているのではないのでしょうか。今できることの一つとして、「科学的防災教育プログラムの開発」を開始いたしました。



タイ王国教員訪問団への教員研修

なお、活動実績の今までとこれからについては、<http://nesm.nara-edu.ac.jp/>をご覧ください。

自然環境教育センター

奈良実習園（市内）、奥吉野実習林（五條市大塔町）の施設等において、授業・公開講座・自然教室等を通して自然環境教育を行うとともに、それらに関する基礎的研究を行います。

【教育研究開発部門】

・フィールドを生かした自然環境教育の基礎的研究を行います。

【地域開放部門】

・奈良実習園と奥吉野実習林を活用して、地域や本学の園児・児童・生徒を対象に自然体験学習をプログラムに沿って行います。

1. 奈良実習園の活用

奈良実習園は旧農場であり、まさに「栽培実習」などの授業では農作物の栽培を学習します。また、将来教員になる学生にとって児童生徒に体験学習をさせるには、本人が経験しておく必要があることから、「幼児と環境」などの授業において、ジャガイモやサツマイモを栽培しています。このイモ掘りは本学附属幼稚園のみならず、周辺の幼稚園児の体験として、今年度も継続的に実施します。

地域貢献として、NPOによる農業体験の場を提供します。さらに、実習園で収穫した米を附属小学校の給食に供するだけでなく、学園祭などで本学を訪れた方々に販売しています。

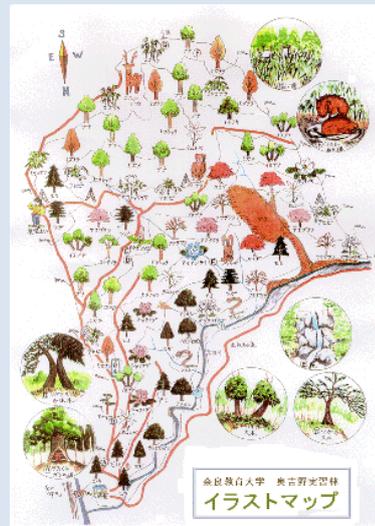


ジャガイモ掘り

2. 奥吉野実習林の活用

五條市にある奥吉野実習林は、豊かな自然が残され、それを利用した「林間実習」、「教科生活キャンプ」などの授業を展開します。薪を山から採取しての炊事などは、

教員になった際の良い経験になるはずです。



現在、台風12号被害により施設利用を休止しています。

3. 公開講座等の実施

センターでは、実習園において、コメ作り体験教室を開催しています。今日、多くの情報をテレビなどから得ることは出来ませんが、実際の体験の機会は少ないです。子どもの自然に対する感性を鍛えるため、普段食べている米がどのように作られるのか、田植え、稲刈り、餅つきを体験してもらいます。さらに、奥吉野実習林では「夏の森を親子で楽しもう」を開催しました。親子でキャンプ生活をおくり、自然観察を通して自然に触れあうとともに、自然の不思議などに目を向けてもらうことと、不便な生活をする中で、普段の生活を見直す機会を提供しています。

現職教員を対象とした「教師のための自然環境教育・理科教育講座」-哺乳類の体の特徴を学び、教材を作る」を開催しました。



餅つきを体験

持続発展・文化遺産教育研究センター

人権・市民性教育、文化遺産教育及び文化多様性教育に関わる理論的、実践的研究を専門的・学際的に行うとともに、その研究成果を応用し、高度の教育実践力を有する教員及び広義の教育者の養成に寄与すること及び留学生の支援並びに国際交流協定大学等との交流・連携を推進します。

【人権・市民性教育研究部門】（新設）

・人権と文化多様性、環境を重視する持続発展教育（ESD）の内容と方法に関する理論的実践的研究と教育を行います。

・人権及び市民性教育に関わる企画・コーディネーションを行います。

【文化遺産教育研究部門】（新設）

・伝統文化や文化財・世界遺産の教材開発、教授法・学習法の開発を行い、教科及び教科横断的内容を豊かにする研究を実践的にを行います。

・ユネスコなどの国際機関と連携し、ユネスコスクールに関する取り組みを通して、持続発展教育を推進します。

【文化多様性教育研究部門】（新設）

・文化多様性教育の軸を東アジアに据え、理論的実践的研究と教育を行います。

・留学生教育を背景とした持続発展教育を推進します。

・提携大学との交流を基盤として、東アジアに視点をおいた教育研究に関わるプロジェクトの企画・コーディネートを行います。

1. ESDって？

大量生産・大量消費・大量廃棄を前提とする現代社会は、持続可能な社会であると言い切れるでしょうか？石油をはじめとする天然資源の枯渇、地球温暖化や気候変動、生物多様性などの環境の問題、人権や平和などの社会的課題、貧困などの経済的課題の解決が求められており、それらの課題解決において教育の重要性が指摘されています。私たち一人一人が世界の人々や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革することが必要であり、そのための教育をESD（持続可能な開発のための教育・持続発展教育）と言います。

ます。

2. 文化遺産の宝庫：奈良

奈良には「古都奈良の文化財」「法隆寺地域の仏教建築物」「紀伊山地の霊場と参詣道」といった世界遺産、「能楽」「題目立」などの世界無形遺産をはじめ、有形無形の文化遺産がたくさんあります。「動植ことごとく栄えること」を願って建立された東大寺の大仏、江戸時代のまちなみが残る奈良町、奈良時代の国際交流を目の当たりにできる正倉院展、1260年以上一度も途切れることなく続けられている東大寺修二会（お水取り）、時代行列が繰り広げられる春日若宮おんまつり、奈良人形一刀彫や墨、筆といった伝統産業など、本当にすばらしい文化遺産を身近に感じることができる、それが奈良です。



世界遺産教育出前講座「模擬授業（世界遺産知床）の様子」

3. 文化遺産を切り口としたESD：世界遺産教育

2002年のヨハネスブルグ・サミットにおいて、日本の提案により2005年からの10年間を「持続可能な開発のための教育の10年（ESDの10年）」とし、将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、現在の世代のニーズを満たすような社会づくりのために、ESDを推進していくこととなりました。本学では、優れた文化遺産を身近に感じることができるという地域の特性を生かし「文化遺産を切り口としたESD：世界遺産教育」の実践的研究に取り組んでいます。

世界遺産教育には2つあります。一つは文化遺産との出会いを通して、地域を見直し、地域を大切に思う心情を育てることです。この地域を大切に思う心情が、持続可能な地域社会の実現に向けた行動の変革の基盤となります。二つは文化遺産そのものから持続可能な社会づくりのための精神や態度を学ぶことができます。

世界遺産教育の実践のためには、教員自身が奈良の文化遺産を知ることが大切です。教員が文化遺産との出会いを通して得た感動が子どもの心に火をつけ、学習意欲を高めます。また文化遺産の保護や継承に携わる人物との出会いが、文化遺産を尊重する態度を育成するとともに、次の社会の担い手としての当事者意識を養います。

持続発展・文化遺産教育研究センターでは、教育講演会や公開講座を開催することで、皆さんの文化遺産体感ツアーの水先案内人を務めると共に、奈良の地で生まれた世界遺産教育を ASPUnivnet（ASP ユニブネット）などを通じて、全国にそして世界に発信することで、持続可能な社会づくりに寄与したいと考えています。



Univnet 連絡会議

各センターのホームページ一覧

各センターの活動については、下記のホームページをご覧ください。

学術情報教育研究センター

http://www.nara-edu.ac.jp/13_CLAI.htm

教育実践開発研究センター

<http://www.nara-edu.ac.jp/CERT/homepage.htm>

持続発展・文化遺産教育研究センター

http://www.nara-edu.ac.jp/20_jizokuhatten_bunkaisan.htm

特別支援教育研究センター

<http://nara-edu-csne.org/web/index.php>

理数教育研究センター

<http://nesm.nara-edu.ac.jp/>

自然環境教育センター

<http://www.nara-edu.ac.jp/ECNE/index.htm>



編集後記

今年は、3月に東日本大震災、9月には本学の自然環境教育センター奥吉野実習林が台風12号による被災を受けました。本学からも教育実践開発研究センターが中心となり、教職員、学生が災害ボランティアとして災害復旧の支援に従事することがありました。被災地では時間の経過とともに支援のニーズが多様化しており、継続的に支援ができることがあれば一員になりたいと思っています。

2011年3月24日に設置された教育研究支援機構は、既存のセンター再編により教育実習の推進、教育臨場などの教育実践支援、総合教育課程の成果の組み入れ、各種GPIによる個性化・特色化など、学部・大学院教育へのサポート体制の強化を図るとともに地域と連携した活動を進展させることを目的としています。

このニュースレターは、教育研究支援機構が各センター取組みを地域の方により分かりやすく身近に感じていただくパイプ役となるため発行することになりました。創刊号は各センターの紹介となっておりますが、教育研究支援機構へのご意見等がございましたら下記メールアドレスまでお寄せいただければ幸いです。

奈良の地でー 学び創造、 学び発信



奈良教育大学

〒630-8528 奈良市高畑町

奈良教育大学秘書・企画課

TEL 0742-27-9296

E-Mail kikaku-1@nara-edu.ac.jp

URL <http://www.nara-edu.ac.jp/>